



専門学校生が陸上自衛隊を見学

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己1等空佐）は2月17日（月）、大原公務員医療専門学校沼津校（沼津市）の学生による陸上自衛隊駒門駐屯地（御殿場市）見学を支援した。

この見学は、同専門学校の芹澤照之校長から依頼があり実施したもので、この春から2年生となる学生が参加した。

駐屯地に入った学生たちは陸上自衛隊の概要について説明を受けた後、同駐屯地に所在する国際活動教育隊を見学。同部隊は国際平和協力活動のため世界各国へ派遣される隊員に対し、派遣地域の状況に関する教育や活動に必要な各種実習を行なう部隊であり、このことを初めて知った学生たちは、これまでの自衛隊の国際貢献の内容や隊員たちの活躍に興味津々な様子であった。

次に、戦車乗りである機甲科隊員を教育する機甲教導連隊を訪問。現在装備されている74式、90式、100式各戦車と16式機動戦闘車を実際に見学した。学生からは戦車の価格や走行速度、操縦に必要な免許等について次々と質問があり、その関心の高さがうかがえた。

午後からは、自衛官として最も基本的な行動の一つである「気を付け」や「敬礼」といった基本教練を実際に体験するとともに、駐屯地資料館に保存されている歴史的に貴重な資料を真剣な面持ちで見学していた。

最後は、駐屯地見学の目玉である第1戦車大隊の74式戦車に6人ずつ体験試乗。学生たちはエンジンやキャタピラー音と予想以上のスピード感に圧倒されながらも、安全確保に努める隊員たちの姿に目を輝かせながら戦車の性能を体感していた。静岡地本は、引き続き採用活動を実施するとともに、広報活動を積極的に実施していく。



幹部候補生合格者が研修で絆を深める

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己1等空佐）は、2月19日（水）から21日（金）までの3日間、東京地方協力本部が企画した「一般幹部候補生採用予定者沖縄研修」に、この春県内から入隊予定の3人を引率した。

この研修は、入隊予定者の不安の払拭と、入隊に向けて同期との一体感を醸成するために企画されたもの。今回は関東甲信越地方及び静岡県の採用予定者89人が参加した。

1日目は、航空自衛隊那覇基地（沖縄県那覇市）第9航空団において、対領空侵犯措置をはじめ空の守りに関する若手幹部自衛官と懇談した。先輩隊員から日頃の警戒監視活動や前年度のスクランブル回数や過去2番目に多かったことなど仕事内容について聞くとともに、参加者も普段の生活など気になっていることを矢継ぎ早に質問していた。

また、F-15J戦闘機やU-25A救難捜索機、UH-60J救難ヘリコプターの見学もあり、それぞれのパイロットから詳しい説明を受けるとともに、夕方の懇親会では、参加者同士、航空機などの話で盛り上がり続けた。

2日目は、陸上自衛隊那覇駐屯地（同市）第15旅団において、日本列島最西端の守りのほか、東西約1000キロ、南北500キロという広域の島々で発生する傷病者の急患空輸や、毎日平均2件行っている不発弾処理について話を聞いた。その後、急患空輸で活躍している第15ヘリコプター隊のUH-60JAやCH-47JAのコックピットなどを見学し、その大きさや機内空間を体感した。

午後は、海上自衛隊第5航空群（同市）において「美ら海の防人」として南西諸島近海の安全確保にあたっているP-3C哨戒機を前に、搭乗員から任務時の緊張感や仕事への誇りについて直接話を聞いた。

研修最終日は、沖縄本島南端にある平和記念公園において慰霊し、平和の尊さをはじめ郷土愛や国防への使命感を醸成した。

研修を終えた参加者からは「幹部自衛官としての将来像がより鮮明になり、モチベーションの向上に繋がった」「年齢の近い若手幹部自衛官との懇談で、実際に勤務するイメージを具体化することができた。春から陸・海・空の同期となる仲間と交流できたことが良かった」などといった感想が聞かれた。静岡地本は今後も、基地見学などを通して入隊予定者の疑問や不安の解消に努めていく。

